

【2023年度 学生交流委員会 事業報告】(案)

委員長校 :神戸常盤大学

副委員長校:神戸学院大学

委員校:芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学
甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護大学
神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学
神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部
姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計27校

＜目的＞

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。

取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」
・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

＜内容＞

取組課題③に対する「個別取組」は、下記の通り。
【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施
他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクト全体を「WILL BEプロジェクト」の総称で位置付け、実施する(例:地元企業・団体等と連携した取組など)。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施
加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報では、コンソHPへの記事掲載を計画・実施する。掲載文等を考えることで自主性や文章構成力を高めることを目的とする。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。併せてコンソの認知度を高める

また事業の実施体制として、ユニット制での実施を継続して実施する。上記2事業に基づく2ユニットのいずれにも全委員校が参加し、ユニットごとに企画立案から多くの加盟校が主体的に参画することにより、学生交流の実質化に繋げる。

＜期待される効果＞

他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。

【取組1】
学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。

【取組2】
参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。
上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		予算額
取組1	WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」	1,010,000円
取組2-1	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	240,000円
取組2-2	学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」	1,000,000円 * 受託事業収入

【2023年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-1)】(案)

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上口			
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上/年			
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-1】	参加学生数30名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-1】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 〈WILL BE プロジェクト〉①地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動			
活動指標 【③取組1-1】	参加団体5団体以上。個人参加15名以上。			
内容 (結果)	「地域子育て支援拠点」や「こどもの居場所」でのボランティア活動 加盟校が連携して、加盟校学生がボランティア活動や地域貢献活動に参加しやすい場、学修成果を活かせる場を提供した。地域社会に根差したボランティア活動を行うことを通じて、学生が子どもをめぐる社会課題についても視野を広げ、専門分野や所属大学の枠を超えた学生交流も促した。 実施期間: 2023年5月～2024年3月 活動先: 4拠点 ①ときわんモトロク(中央区・元町六町目商店街) ②ときわんノエスタ・てらこやノエスタ(兵庫区・ノエビアスタジアム神戸) ③ときわんクニヅカ・てらこや(長田区・アスタくにづか4番館) ④あかしフリースペース トロッコ(兵庫県明石市天文町1-4-12) ※①～③は、神戸常盤大学が設置する「子育て支援センター」施設。 ※④は、明石市が設置、「B&G財団」が支援する「子ども第3の居場所」施設。 参加学生数: 延べ37名 ※①②③ときわん: 延べ18名〈登録者5校・7名/関西学院大学(1)、神戸学院大学(1)、神戸市看護大学(1)、神戸女子大学(3)、兵庫県立大学(1)〉 ※④子どもの第3の居場所: 延べ19名〈登録者4校・7名/神戸学院大学(1)、神戸女子大学(1)、兵庫大学(2)、兵庫県立大学(3)〉			
新しい試み等 (事業計画に記載)	本事業を2023年10月より、公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの協働事業として上限40万円の助成を得て学生がボランティア活動を継続的に従事できる環境を整えた。また、新たに明石市が不登校児支援のために設置する子どもの居場所「あかしフリースペース トロッコ」でのボランティア活動を公益財団法人B&G財団との連携で開始し、地域で学生が活動できる拠点を拡充できた。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	1,010,000円	1,036,650円	-26,650円	※取組1-1、1-2、1-3の合計
自己評価	【対到達目標】	2	【対継続性】	3
	前期(5月～9月)において20人以上の申し込みがあり、地域でのボランティア活動に対する学生のニーズは一定数あったといえる。ボランティアが初めての学生も、第一歩を踏み出す場となっている。また、一回限りではなく、複数回継続的に参加する学生が増加傾向にある。定期的な発信(公募)をすることで、参加者の増加は期待できるため、本プログラムは継続しても良いと考える。			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	■自己評価基準 (対到達目標) 4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った			
	■自己評価基準 (対継続性) 4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき			
地域において、加盟校や行政が有する子育て支援施設や子どもの居場所とコンソーシアムが連携して、学生が日常生活の延長線上でボランティア活動ができる仕組みができていることは評価できる。また、外部資金を活用することで、学生の活動交通費等を手当し、学生の経済的事由での負担を軽減できている点も評価できる。今後は、この取組の認知度を高め、活動が活発化することを期待する。				

【2023年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-2)】(案)

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上			
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上/年口			
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-2】	参加学生数10名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-2】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 〈WILL BE プロジェクト〉②「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 (正式名:ナガセケムテックスプレゼンツ 「ヴィクトリーナ姫路・大学コンソーシアムひょうご神戸 スポーツビジネスコンテスト」)			
活動指標 【③取組1-2】	参加学生のチーム活動／月1回以上(活動期間中)			
内容 (結果)	◆「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 地域の活性化に資する人材育成のためのプログラムとして、地域スポーツ振興をテーマに企画実施。バレーボールVリーグに所属する「ヴィクトリーナ姫路」が抱える事業課題について、ゼミ単位もしくは大学の垣根を越えて構成した学生プロジェクトチームで、課題解決につながる企画を立案し、ヴィクトリーナ姫路へのプレゼンテーションを経て、その企画を学生が主体となってホームゲームで実践し、その効果を検証する。 学生にとっては、大学講義等で学んだことを実践する機会となり、深みのある学びが期待できる。また、本事業を通じて、社会人として求められるスキルであるマーケティング思考やプロジェクトマネジメントを習得するきっかけとする。 活動期間:2023年8月～2024年1月 ・2023年8月5日(土):オリエンテーション(会場:神戸学院大学 神戸三宮サテライト) ・2023年8月6日(日)～10月6日(金):企画実施準備(チームごとに活動) ・2023年10月7日(土):企画プレゼン大会(会場:イーグレ姫路) ・2023年10月14日(土):学生チームの企画に対して実践に向けての課題提案(オンライン) ・2023年10月～11月:企画実施準備(オンラインワークショップ計6回開催) ・2023年10月28日(土):現地視察(会場:たつの市立龍野体育館) ・2023年12月23日(土)・24日(日):企画実地(会場:ヴィクトリーナウインク体育館) ・2024年1月13日(土):結果発表・表彰式 参加学生数:延べ190名〈登録者8校・45名/関西福祉大学(5)・関西学院大学(2)・甲南大学(1)・神戸大学(1)・神戸学院大学(12)・神戸親和大学(7)・兵庫県立大学(5)・流通科学大学(12)〉 コンテスト結果: ・最優秀賞(第1位):百UPチーム(神戸学院大学)・ヴィクトリーナ姫路公式LINEにさまざまな機能を実装 ・優秀賞(第2位):ぐりとあきチーム(大学コンソーシアムひょうご神戸)・オリジナルうちわを販売 ・ナガセケムテックス賞(第3位):高松ゼミチーム(神戸親和大学)・オリジナルパーカーを販売 ・ヴィクトリーナ姫路賞(参加賞):カンブクーナ(関西福祉大学)、マネーの虎(流通科学大学)、山口ゼミ(流通科学大学)、坪田組(神戸学院大学)、コンソメ(大学コンソーシアムひょうご神戸)			
新しい試み等 (事業計画に記載)	活動期間中、ビジネスコンテストを実施するだけでなく、学生運営スタッフによる、学生同士の交流が促進する取り組みを実施。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	1,010,000円	1,036,650円	-26,650円	※取組1-1、1-2、1-3の合計
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	2年目を迎えるプロジェクトとして、課題提供をいただく企業様(ヴィクトリーナ姫路)には、学生の企画プランの審査に加えて、企画・立案の段階から、学生に実践的な助言をいただく仕組みを構築するなど、連携体制の充実を図りながら、事業運営ができた。本プログラムは計画通り進めることができており、継続すべきと考える。			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき	
	地元企業・協賛企業との連携による本プロジェクトは継続することにより、プログラムの内容も深まり、学生自身の成長や地元企業理解に寄与していることがうかがえる。今後も、地元企業等との連携を図りながら、人材育成プログラムとしての本コンテストを継続することを期待する。			

【2023年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-3)】(案)

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上			
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上/年〇			
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標【③取組1-2】	参加学生数10名以上			
課題を解決する取組概要【③取組1-2】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 ＜WILL BE プロジェクト＞③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドバビリオン」との連携～			
活動指標【③取組1-2】	参加学生のチーム活動／月1回以上（活動期間中）			
内容 （結果）	◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドバビリオン」との連携について 兵庫県では2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」に向けて「兵庫県万博推進室」を設置し、「ひょうごフィールドバビリオン」構想のもとに、県内団体から「SDGs体験型地域プログラム」を公募して、関西に訪れる国内外のツーリストを兵庫県に誘致する観光施策をスタートしている。本企画では、兵庫県が推進する「ひょうごフィールドバビリオン」構想のもと、地元自治体・企業・団体等と連携し、国家プロジェクトの一つでもある「大阪・関西万博」を学生交流や学生の教育機会に活用する。万博終了後も「兵庫県の大学生が兵庫県の魅力を自ら体感し、その魅力を発信する」経験を通じて、学生生活の充実へとつながることを目指す。 ①キックオフイベント「大阪・関西万博2025 機運醸成フォーラム」 日時：2023年12月10日(日)13:00-16:00 会場：兵庫県立兵庫津ミュージアム 内容：第1部「基調講演」 ①：万博って何？～大阪・関西万博2025の開催に向けて～ 講師：川村 泰正氏(公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 広報・プロモーション局地域・観光部審議役) ②：ひょうごフィールドバビリオンの展開について 講師：三宅 隆之氏(兵庫県企画部万博推進局長) ③：観光立国・日本が目指すべきツーリストシップ溢れる旅行の提言 講師：田中 千恵子氏(一般社団法人ツーリストシップ代表理事) 第2部「パネルディスカッション」 テーマ：万博開催波及効果としての地域観光需要の活性化と課題について 参加者：総計34名 学生…5校9名(うち加盟校4校8名・非加盟校1校1名) (加盟校内訳) 関西学院大学(1)・神戸常盤大学(5)・甲南大学(1)・兵庫県立大学(1) 教職員…2校2名<神戸女学院大学(1)・神戸親和大学(1)> 行政・企業・団体…7社10名 (内訳) 兵庫県(4)・あまがさき観光局(1)・ツーリストシップ代表理事(1)・ 兵庫津ミュージアムひょうごBeyond 2025 プロジェクトチーム(1)・多可町役場(1)・ 兵庫県立コウノトリの郷公園(1)・有限会社玉木新雌(1) 大学コンソーシアムひょうご神戸事務局…4名、一般…9名 ②兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project 活動期間：2024年2月～2024年9月 兵庫五国の魅力を発見するモニターツアーを実施。2024年夏にツアーでの体験の成果を「兵庫県立兵庫津ミュージアム」の「万博展(仮称)」で展示・案内する予定。 ＜説明会・講習会＞ ・2月27日・28日オンライン説明会 ・3/5(火)・12日講習会&グループワーク(兵庫県立兵庫津ミュージアム) ＜現地モニターツアー＞ ①播磨(多可町&西脇市)3/15(金)＋ 4/14(日) 内容：多可の森健康ウォーキング、播州織工場見学・ものづくり体験 ②但馬(豊岡市)日程：3/19(火) 内容：季節の野菜収穫体験、コウノトリの観察と環境学習 ③丹波(丹波市&丹波篠山市)日程：3/27(水) 内容：丹波サイクリング体験、丹波立杭焼の陶芸体験 ④摂津(尼崎市&川西市)日程：4/1(月) 内容：尼崎運河クルーズ&釣り体験、「日本一の里山」を巡るウォーキング&茶道体験 ⑤淡路(淡路市・南あわじ市)日程：4/5(金) 内容：線香工場見学・香り作り体験、淡路たまねぎ収穫体験、慶野松原・根上り松の保存活動 参加学生数：延べ33人(3月25日現在：登録者10校28名/芦屋大学(1)・関西学院大学(2)・甲南大学(1)・神戸大学(1)・神戸海星女子学院大学(1)・神戸女学院大学(4)・神戸常盤大学(1)・兵庫県立大学(2)・神戸学院大学(1)・流通科学大学(14))			
新しい試み等 (事業計画に記載)	2023年度から2024年度にかけての新たな取り組みとなる。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	1,010,000円	1,036,650円	-26,650円	※取組1-1、1-2、1-3の合計
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	—			
■自己評価基準 (対到達目標)	4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った		■自己評価基準 (対継続性)	4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	—			

【2023年度 学生交流委員会 事業報告(③取組2-1)】(案)

【③取組2】達成目標	情報公開数200取組以上			
【③取組2】活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年			
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組2-1】	情報公開数200取組以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組2-1】	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施			
活動指標 【③取組2-1】	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年			
内容 (結果)	◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開した。また必要に応じて、様々なメディア等に掲出。 地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化・地域貢献に寄与することを目指す。 大学コンソーシアムひょうご神戸HP(取組事例) ・「地域・社会での交流～学生の地域での活動がわかる～」 加盟校の地域連携・社会連携情報リンクを集約、38校掲載 ・「note」記事「地域で輝く学生」に24取組掲載、学校別に集約 メディア掲載 ・神戸新聞2024年1月21日付「ヴィクトリーナ姫路のファン拡大策、神院大の企画が最優秀賞に 10大学参加、ホーム戦で実践も」(ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト取材記事) ・神戸新聞2024年3月25日付「体験型観光で訪日客を兵庫に 万博に向け学生プロジェクト講習会」(兵庫の魅力Student Treasure Hunt Project取材記事)			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入	支出	収支	備考
	240,000円	96,919円	143,081円	
自己評価	【対到達目標】	2	【対継続性】	3
	学生の地域活動は、活動内容が多様であるがゆえに、加盟校担当者によっては情報の取捨選択が難しい場合がある。しかし、地域人材として加盟校学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に広報する活動は、人材育成の観点でも重要であるため、情報提供しやすいテーマや情報提供の仕組み等を工夫することで、本プログラムは継続しても良いと考える。			
■自己評価基準 (対到達目標)		■自己評価基準 (対継続性)		4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	コンソHP上にて「地域で輝く学生」と題して、学生交流事業「WILL BEプロジェクト」の活動PRに加え、各加盟校の特長ある地域活動を通じて、コンソーシアム全体の認知度を高める取り組みは重要である。次年度も引き続き、広報活動の活発化に取り組んでいただきたい。			

【2023年度 学生交流委員会 事業報告(③取組2-2)】(案)

【③取組2】達成目標		情報公開数200取組以上			
【③取組2】活動指標		各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年			
課題③		大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組2-2】		参加加盟校数10校以上/年			
課題を解決する 取組概要 【③取組2-2】		加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施 学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」			
活動指標 【③取組2-2】		参加団体1団体以上。個人参加20名以上。			
内容 (結果)		◆県民向け防災施策PR動画作成(受託業務) 近年頻発する豪雨災害などの自然災害や、今後発生すると言われている南海トラフ地震への対策や備えについて、学生たちが正しい認識を持つことが、自分や家族、友人の命を守り、被害の軽減につながる。 兵庫県においては、災害時に誰一人取り残さない各種施策を展開しており、今後もより一層の充実を図る必要がある。また、防災に対して難しい印象を持つ若者や学生が近年の災害や兵庫県の防災施策について研究し、みんなが助け合う意識づくりや防災リテラシー向上に繋がるような、学生目線のわかりやすい防災施策PR動画を作成する。 ※主に県庁見学や研修等で来庁の一般県民を対象とし、防災イベント等での上映も想定 内容: ①(災害や防災施策の現状について、学生・関係者等へ)ヒアリング調査、企画。 ②シナリオ作成(絵コンテ、ロケハン含む)。 ③動画撮影(出演含む)。 ④編集作業(ナレーション等含む)。 ※ 県庁見学は小学生以上対象のため、小学生から大人まで理解できる内容とし、字幕つきでユニバーサル対応の映像を作成した。 2024年3月11日に兵庫県公式「ひょうごチャンネル(兵庫県インターネット放送局)」に掲載 https://hyogo-ch.jp/video/5177/ 【スケジュール】 5～6月 : 学生募集、調査、企画 6～7月 : シナリオ、絵コンテ作成 7～9月 : ロケハン、撮影 9～11月: 編集 一般公開: 2024年3月11日 参加学生: 7校18名 関西国際大学(10)、関西学院大学(1)、神戸学院大学(1)、神戸市看護大学(2)、神戸女学院大学(1)、神戸常盤大学(1)、兵庫県立大学(2)>			
新しい試み等 (事業計画に記載)		今年度、兵庫県より初めて業務委託された新しい試みである。			
事業収支		収入	支出	収支	備考
		999,900円	999,900円	0円	
自己評価		【対到達目標】	2	【対継続性】	3
		学生目線のわかりやすい防災施策PR動画を作成すべく、約半年間の活動期間中、学生たちは災害を自分事として考える経験を積み重ねた。阪神・淡路大震災や防災について学び、ミーティングを重ねながら、学生自身が動画コンセプト・脚本・動画出演を行うなど、12月末の完成に向けて、本プログラムは予定通り、進めることができています。なお、本プログラムは、兵庫県からの単年度の委託業務のため継続はない。			
■自己評価基準 (対到達目標)		4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った		■自己評価基準 (対継続性)	
				4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき	
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)		阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが、兵庫県の公式の防災啓発動画を作成することは貴重な機会であり、意義のある活動であったといえる。今後も機会があれば、震災の記憶の継承ならびに、頻発する自然災害に備えることができる学生の育成を期待する。			

2023年度 学生交流委員会 事業決算(案)

(単位:円)

		予算額	決算額	各プログラム 予算・決算									委員会 予算・決算				
				取組1 WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」			取組2-1 学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」			取組2-2 学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」							
				内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額		
収入	会費収入	1,350,000	1,233,209		1,010,000	1,036,650		240,000	96,919					100,000	99,640		
	助成事業収入	0	0														
	受託事業収入	1,000,000	999,900							兵庫県危機管理部委託業務	1,000,000	999,900					
	プログラム収入	0	0														
	雑収入	0	0														
	戻入金	0	0														
	計	2,350,000	2,233,109	1,010,000			1,036,650	240,000			96,919	1,000,000			999,900	100,000	
支出	会議費	120,000	5,124	交流会・反省会	100,000					会議費	10,000		会議費	10,000	5,124		
	旅費交通費	830,000	690,790	交通費・昼食費	700,000	597,000	交通費・昼食費	30,000		交通費・昼食費	90,000	54,460	旅費交通費	10,000	39,330		
	通信運搬費	70,000	27,288				通信費	10,000	19,700	通信費	50,000	196	通信費	10,000	7,392		
	消耗品費	260,000	285,392	消耗品	10,000	1,650	消耗品	0	8,999	消耗品	240,000	234,429	消耗品	10,000	40,314		
	新聞図書費	10,000	0							参考図書	10,000	0					
	印刷製本費	50,000	160							コピー代	50,000	160					
	光熱水料費	0	0														
	賃借料	0	45,000	会場費	0	45,000											
	保険料	0	0														
	謝金	600,000	474,420	講師等謝金	50,000	393,000	謝金・原稿料等	200,000	68,220	講師等謝金	350,000	13,200					
	租税公課	0	0														
	支払手数料	30,000	11,935							振込手数料	0	4,455	振込手数料	30,000	7,480		
	諸会費	150,000	0	ブース等出店料	150,000	0											
	委託費	230,000	693,000							製作費等	200,000	693,000	各プログラムHPに係る 予備費	30,000			
	人件費	0	0														
	接待交際費	0	0														
	支払支援金	0	0														
	雑費	0	0														
	計	2,350,000	2,233,109	1,010,000			1,036,650	240,000			96,919	1,000,000			999,900	100,000	

収入－支出	116,891
-------	---------